

2023 年春季 参加報告書

参加プログラム：マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク

参加時の学年：1 年、学部：経済、学科：金融

私は高校のころドイツ語を学んでおり、自分の力試しと今後のドイツ語学習のやる気を持たせるためドイツヴィッテンベルクコースに参加した。ドイツではとても充実した日を過ごすことができ、平日はドイツ語の勉強で土日は観光と1日1日が新鮮だった。10人しか学生がいなかったため授業中当てられることが多いが、それ以上に学んだことが多かった。授業の中だけでなく買い物や観光でもドイツ語を使うため、現地の人が使っている教科書に載っていない言葉も学ぶことができた。留学が始まって1週間は何も聞き取れず悔しい思いをたくさんしたが、慣れてくると相手が何を言っているのか理解することができるようになった。ホストマザーが優しく親身に接してくれ、ヴィッテンベルクのことやドイツのゲームをたくさん教えてくれた。わからない単語は英語に訳してくれたり、時には翻訳を使ってお互いに理解することができた。ヴィッテンベルクは落ち着いた歴史ある町で建物がカラフルなため見ているだけでも楽しめた。マルティン・ルターが大きく関係している町だったので、ルターを授業で触れる機会が多く実際にルターハウスなど建物を見ながら学ぶことができた。

ドイツ留学の中で大きく印象に残ったことは2つある。1つ目は、ドイツの有名なゲーム「ルドー」をやったことだ。私はホストマザーと同じコースに参加している友達とその子のホストマザーの4人で毎週日曜日ゲームをした。最初はルールを理解するのが難しかったが、何回もやるうちに楽しくなった。授業の中でも先生が一度「ルドー」をやる時間をくれ、クラスみんなで楽しめた。2つ目は、ベルリンに行ったことだ。ベルリンはドイツの中でも大きな州であり、一度行ってみたかった場所である。2週目と3週目の2回行き、ブランデンブルク門やイーストサイドギャラリーや国会議事堂などの観光名所を訪れた。ベルリンは、ヴィッテンベルクと違い観光客も多くにぎわっていた。観光場所同士が決して近いわけではないので、自分たちで電車を乗り継いだりバスに乗ったりしてチケットの買い方や機械の通し方などを知るきっかけになった。

私が留学を通して成長できた面は人と話すことだ。日本にいたときは人見知りで話しかけることが苦手だった。しかしドイツに来て、ドイツ人は気さくに話しかけてくれる人が多く心が開くようになった。お店に入るときの「ハロー」はもちろんのこと、買い物を手伝ってくれたことがあった。ドイツ語の語学力も成長することができ、初めは話しかけられるのを待っていただけだが自分から話しかけるようになった。自分のドイツ語力に自信を持つことができ前に進めた。

私は留学が終わった後もドイツ語の勉強を続けたい。大学のドイツ語授業をとりたいが、時間割が合わなかったして履修できなかった場合は自分で勉強しようと思う。留学に行くことでもっと話せるようになりたいと思うようになりコースに参加してよかった。1年のうちに良い経験をすることができたので今後つなげていきたい。